

交差

日本スピードスケート界復活へ 平昌オリンピックへ向けた組織改革

日本女子体育大学教授
公益財団法人日本スケート連盟スピードスケート強化部長

湯田 淳（平成3卒）

2018年2月、冬季オリンピック平昌大会において、日本スピードスケートチームはメダル6個（金3、銀2、銅1）を獲得し、過去最高の成績を残した。2014年ソチ大会では国別メダルランキングにおいて8位（獲得メダル無し）であった日本は、その後の平昌大会では4年間という短期間で強国オランダに



平昌オリンピック競技会場にて（2018年）

次ぐ2位にまで浮上し、躍進を遂げた。平昌大会において筆者はスピードスケート監督として臨んだが、ここでは平昌大会へ向けた4年間の強化の取り組みを紹介したい。

冬季オリンピック日本スピードスケート界は1984年サラエボ大会で銀メダルを獲得し、その後6大会連続でメダルを獲得している。長らく高い国際競技力を誇ってきた日本であったが、2010年バンクーバー大会後は大きく力を落とし、その後のソチ大会ではメダルを逃すともに入賞数が4つと低迷期を迎えてしまった。

このような背景の下、筆者はソチ大会後にスピードスケート強化部長として、現場の強化責任者としての任を受け、4年後の平昌大会へ向けての再建を進めることとなった。2000年より科学責任者として強化現場における科

学サポートを担当してきたが、それまでの立場とは全く異なる立場でのスタートであった。

新体制では国際化を積極的に推進し、先進的なコーチング技術を取り込むことによって国際競争に打ち勝つ強化システムの構築を目指して、「ナショナルチーム」と「個別選手強化」という競争の構図の下での強化システムを設定した。結成されたナショナルチームは、国外から有能な人材をヘッドコーチとして招聘し、企業や大学といった所属の垣根を越えて能力の高い選手を集め、医学や科学等のスペシャリストのサポートを受けながら年間を通じた連盟主導のチームとして活動するといったものであった。

ナショナルチーム入りは、選手（およびその所属）が判断するという選択制とした。ナショナルチームを選択しなかった有力選手においては、高い競技力を育む現在の所属での強化を推進するため、別途強化費を支給することとし、これを個別選手強化というカテゴリとした。このようにして構築されたナショナルスプリントおよびオールラウンドチーム強化、そして個別選手強化といった3つのカ

テグリーが切磋琢磨しながらトレーニングに励み、日本代表選手団として国際競技力向上を目指して世界を見据えて戦うという新システムを構築した。

ソチ大会後に取り組んだ改革は、人事や権限の変更といった痛みを伴う厳しいものであった。平昌大会へ向けて年度ごとに課題を洗い出し、解決策を遂行するといった繰り返しによって前述の強化体制を洗練化させつつ推進した。平昌大会の成功は、選手をはじめとする多くの関係者の努力が結実したものであると改めて実感している。

Profile



ゆだ・じゅん／1972年秋田市生まれ。筑波大学体育専門学群卒。同大学院にて体力トレーニング論で修士号、バイオメカニクスで博士号を取得。スピードスケート競技引退後、2000年より日本スケート連盟スピードスケート強化部の科学担当者としてオリンピックをはじめ多くの国際大会に帯同。国立スポーツ科学センター研究員を経て、2007年に日本女子体育大学に着任。2014年よりスピードスケート強化部長に就任し、平昌オリンピックでは監督としてスピードスケート陣を指揮。同連盟理事、科学委員長。

山内法律事務所

弁護士
山内 満（昭和47年卒）
弁護士
有働 悠一

〒010-0945 秋田市川尻みよし町1-49
TEL 018-888-3711 FAX 018-888-3712

人類は森から生まれた
「街に森を、緑を」
植樹ボランティア

グループ「森」

皆さんの参加をお待ちします！

会長・川上 茂樹（昭和45年卒）
石澤 千秋（昭和46年卒）
林 康夫（昭和47年卒）
藤原 彰人（昭和47年卒）
《事務局》018-828-3033

生活空間をクリエイトする
Total Interior & Water Proof Design

株式会社 東 和

代表取締役 野口 久 崇
（昭和47卒）

〒010-0921
秋田市大町2丁目7番26号
TEL.018-864-4561
FAX.018-864-4564
URL http://www.akitanet.jp/towa/



代表取締役社長
石塚 真人（昭和47年卒）

秋田テレビ株式会社

本社：〒010-8668
秋田市八橋本町3-2-14
TEL.018-866-6121
FAX.018-866-3838